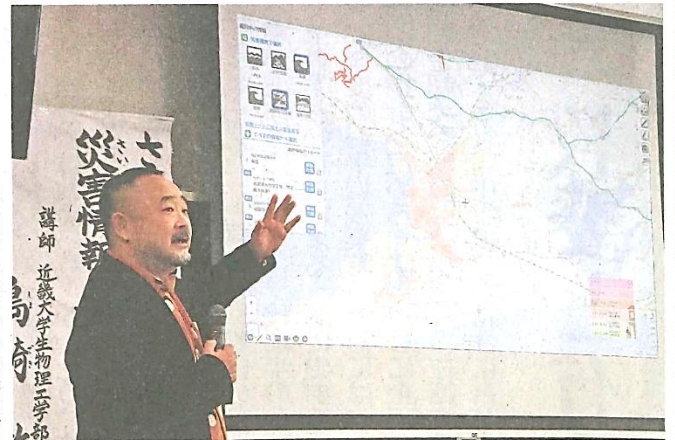


生成AI生かし備えを

豊橋 防災集会で近畿大准教授講演



災害や防災について講演する近畿大の島崎准教授＝豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」で

東日本
大震災
14年

東日本大震災から14年を迎えた11日、防災を考える集会「3・11を忘れない集い」が豊橋市東新町の市障害者福祉会館「さくらピア」であり、同館利用者ら約30人が災害発生時の命の守り方や人工知能(AI)を生かした備えを学んだ。

近畿大の島崎敢准教授(安全心理学)が「災害情報をも自分ごとに変換する」をテーマに講演した。

年代、障害や病気の有無など、できるだけ細かい情報を「個人で防災は変わる。オーダーメイドで考えることが大切」と訴えた。災害発生時は事態を過小評価して安全だと思い込む「正常性バイアス」が働きやすいと指摘。「自らが率先して津波などから逃げる行動を」と呼びかけた。

(岩本雅子)

《7》

社 会

2025年(令和7年)3月12日(水曜日)

東 愛 知 新



平時に行動計画立て試して

東日本大震災発生から14年 豊橋「さくらピア」で集い

島崎さん防災講演

東日本大震災発生から14年。豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で11日、「3・11を忘れない集い」が開かれた。館の利用者や近隣住民ら30人が参加し、災害への心の備えについて学んだ。

東北支援バザーや防災頭巾作り、講演、映画上映など、被災地を思うと、全員で震災犠牲者に黙とう。さくらピア指定管理者である豊橋障害者

ともに毎年異なるテーマで当地の防災を考える取り組み。今年は近畿大学から安全心理学が専門の島崎敢准教授を講師に招き「災害情報を自分ごとに変換する」と題した話を聞いた。

「(児) 団体連合協議会の山下徹会長あいさつの後、島崎さんが講演。災害の特徴として「たまにしか起きない」「起きたときは被害が大きい」「1人では乗り切れないことが多い」などを挙げ、「みんなでも乗り越えることが大切。コミュニケーションが重要」と説いた。

必ずやっておくこととして「ハザードマップの確認」「家具固定」を念押しし、「発災時に情報を得ることは難しい。平時に情報を仕入れ、行動計画を立てておいて欲しい。できれば試してみる」と話した。

急性期と復興期に分けた「防災の目的」を挙げたほか、聞いただけではピンとこない「30ミリの雨」「30分の風」を、「ピーチパラソルにランドピ

災害に対する心の備えについて話す島崎さん

アノを乗せたぐらいの風圧」「四層半に降ると218センチ(風呂約1杯分)」などと例えて説明。リス

クコミュニケーションの難しさや、ストレス回避のために危機的でない情報を探そうとする防衛機制「正常性バイアス」などについても言及し、「危機的状況にあつたらまず逃げる」と訴えた。

【田中博子】